

第2章 都市構造上の課題の分析

2-1 東浦町の現状

(1) 人口

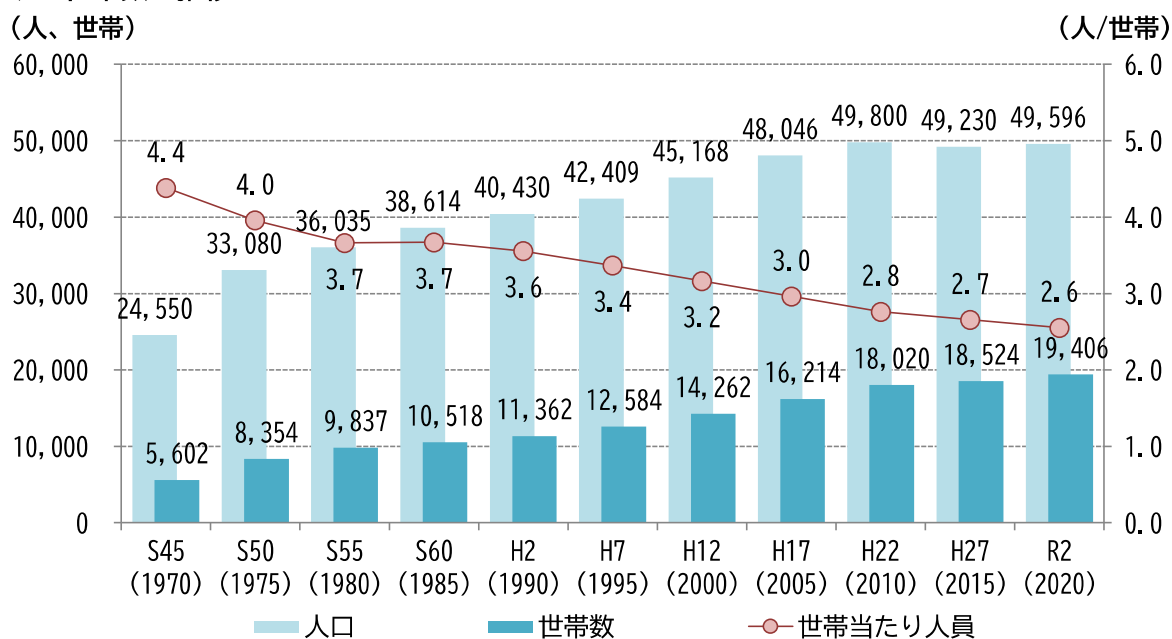
① 人口・世帯数

- ・人口は、平成 22（2010）年まで増加が続いていたが、以降は概ね横ばいで推移している。
- ・世帯数は、増加が続いている。

昭和 45（1970）年以降の国勢調査による本町の人口動向をみると、平成 22（2010）年までは増加が続いていましたが、以降は概ね横ばいで推移しています。

世帯数は増加が続いていますが、世帯当たり人員は、昭和 45（1970）年の 4.4 人/世帯から令和 2（2020）年には 2.6 人/世帯へと減少しており、核家族化や単独世帯の増加が進行しています。

■人口・世帯数の推移



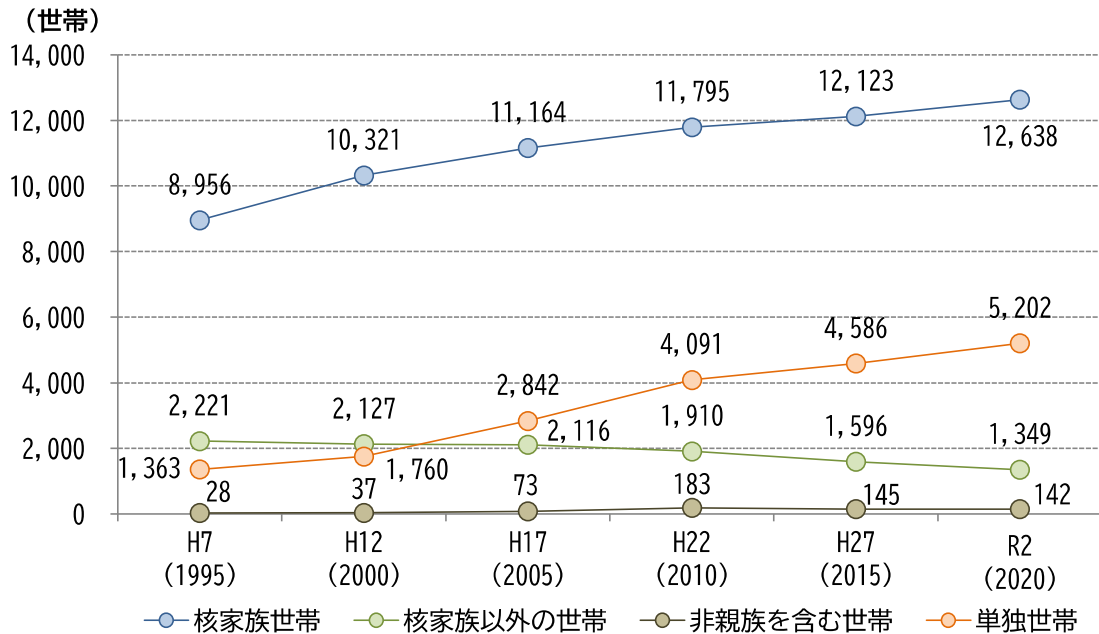
【資料：国勢調査】

② 家族類型別世帯数

・核家族世帯、単独世帯の増加が続いている。

本町の家族類型別世帯数の推移をみると、核家族世帯、単独世帯の増加が続いています。

■ 家族類型別世帯数の推移



【資料：国勢調査】

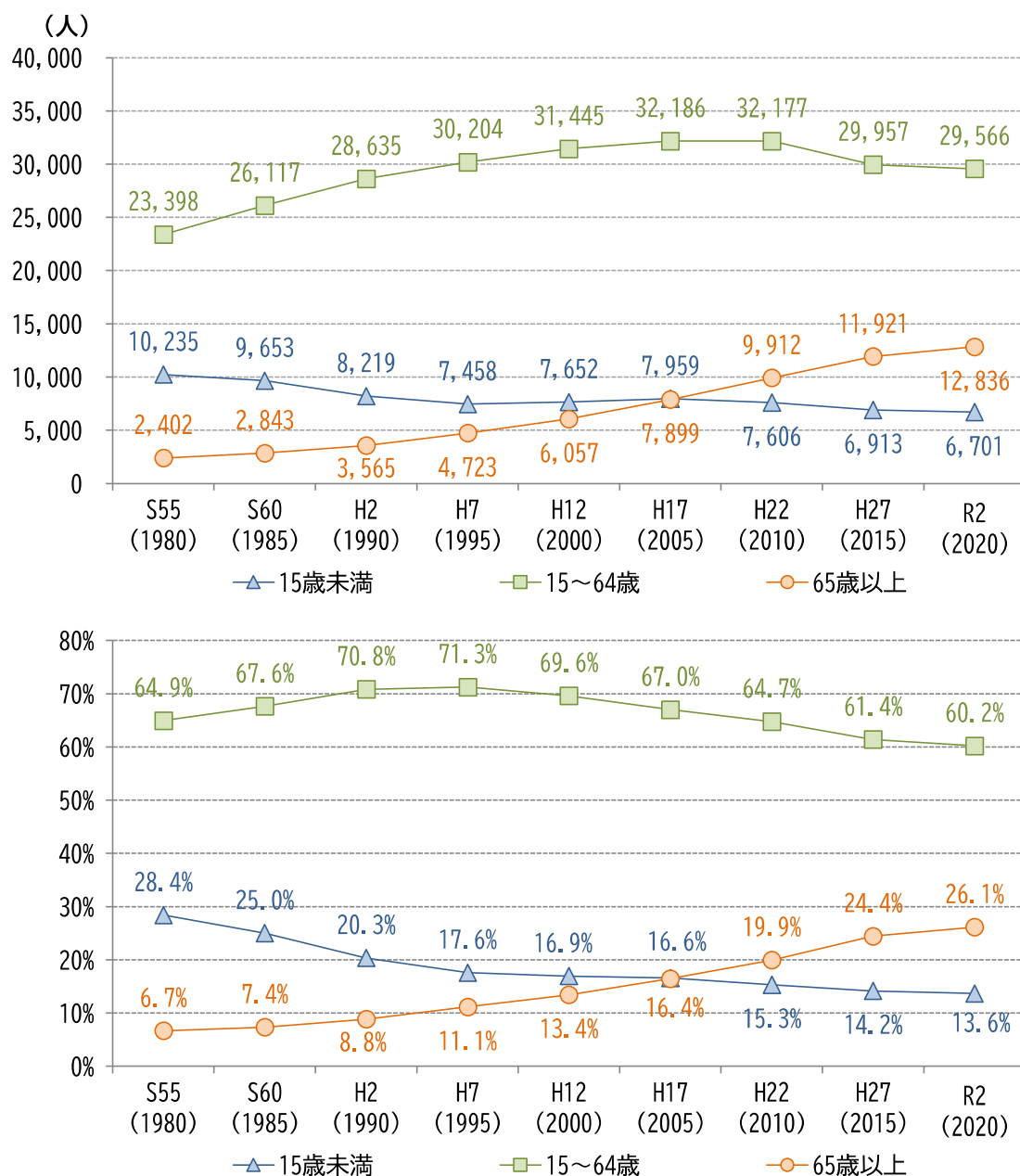
③ 年齢3区分別人口

・年少人口及び生産年齢人口の減少、老年人口の増加により高齢化が加速している。

昭和 55（1980）年以降の本町の年齢3区分別人口の動向をみると、年少人口（15歳未満）は減少傾向にあり、生産年齢人口（15～64歳）は平成 22（2010）年をピークに減少に転じています。一方、老年人口（65歳以上）は増加傾向が加速しています。

高齢化率（65歳以上が占める割合）は加速度的に上昇しており、平成 27（2015）年には 24.4% となっています。また、年少人口割合が依然下げ止まらない状況にあり、少子高齢化が進行しています。

■年齢3区分別人口とその割合の推移



※年齢不詳を除く構成比

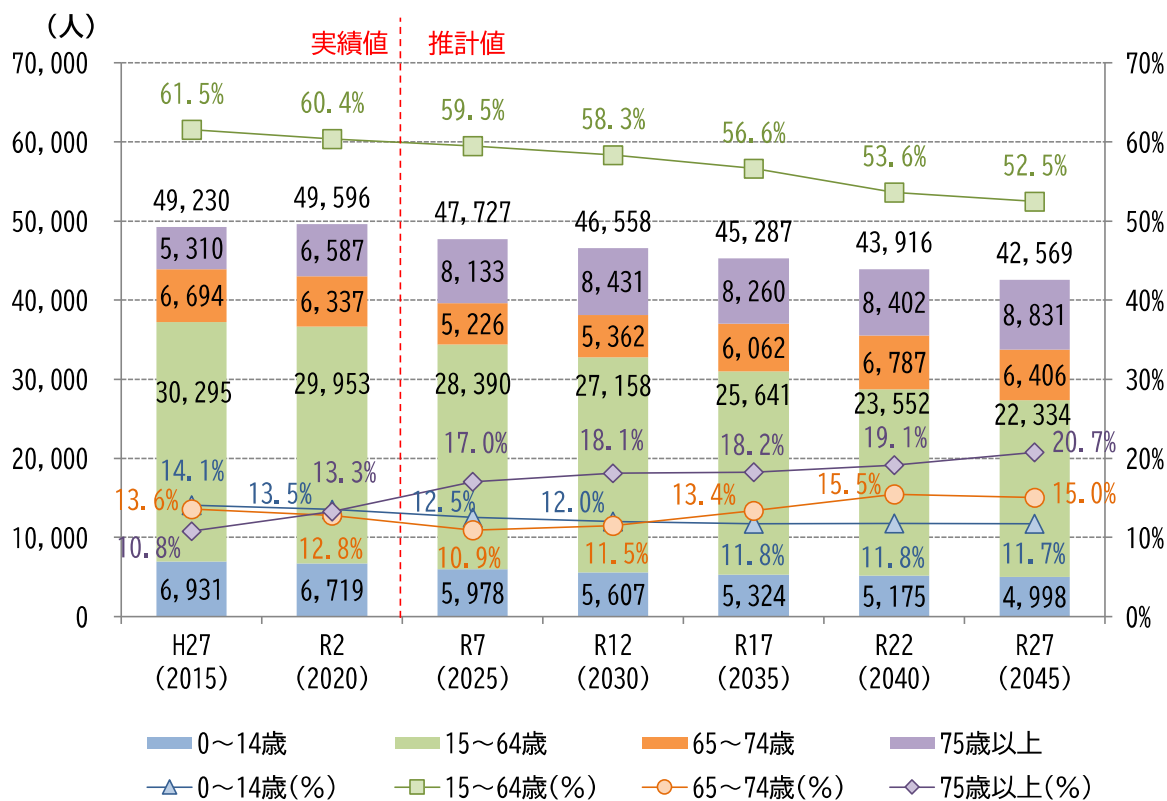
【資料：国勢調査】

④ 将来人口の見通し

・将来人口は減少していく見込み。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」）によると、本町の将来人口は減少していく見込みとなっています。長期的な見通しとしては、令和27（2045）年の人口が42,569人（平成27（2015）年人口49,230人に対して14%減）と推計されています。また、65歳以上人口の比率は平成27（2015）年の24.4%から、令和27（2045）年には35.8%まで高まるものと想定されています。

■将来人口の見通し



【資料：実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所(平成30(2018)年推計)】

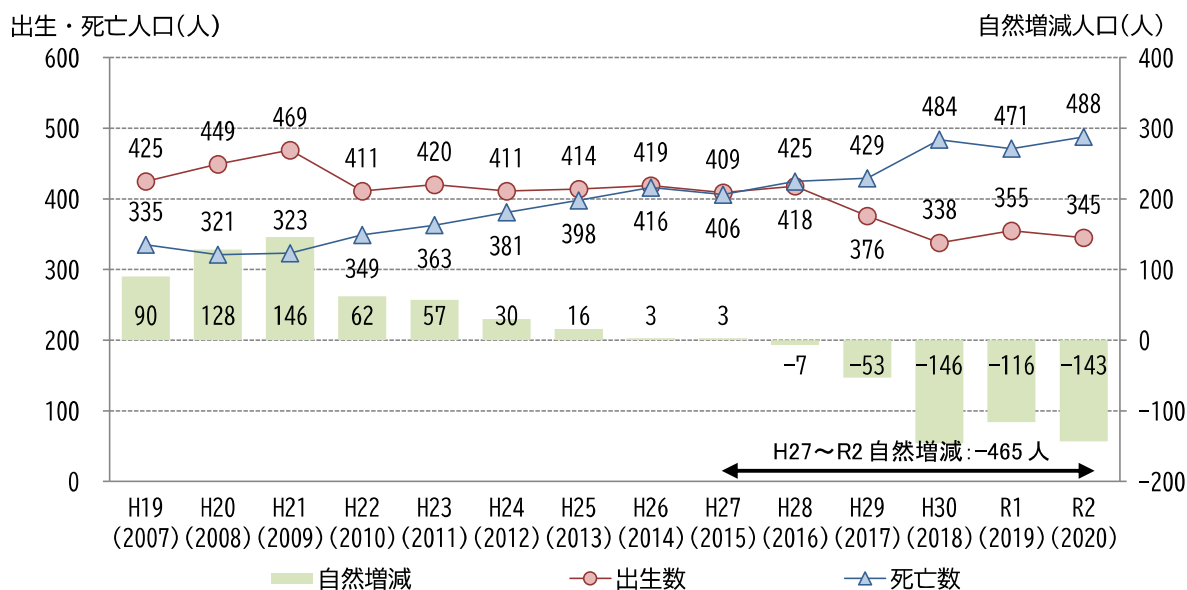
⑤ 人口動態

- ・自然増減は、平成 28（2016）年に自然減に転じている。
- ・社会増減は、社会増と社会減を繰り返している。

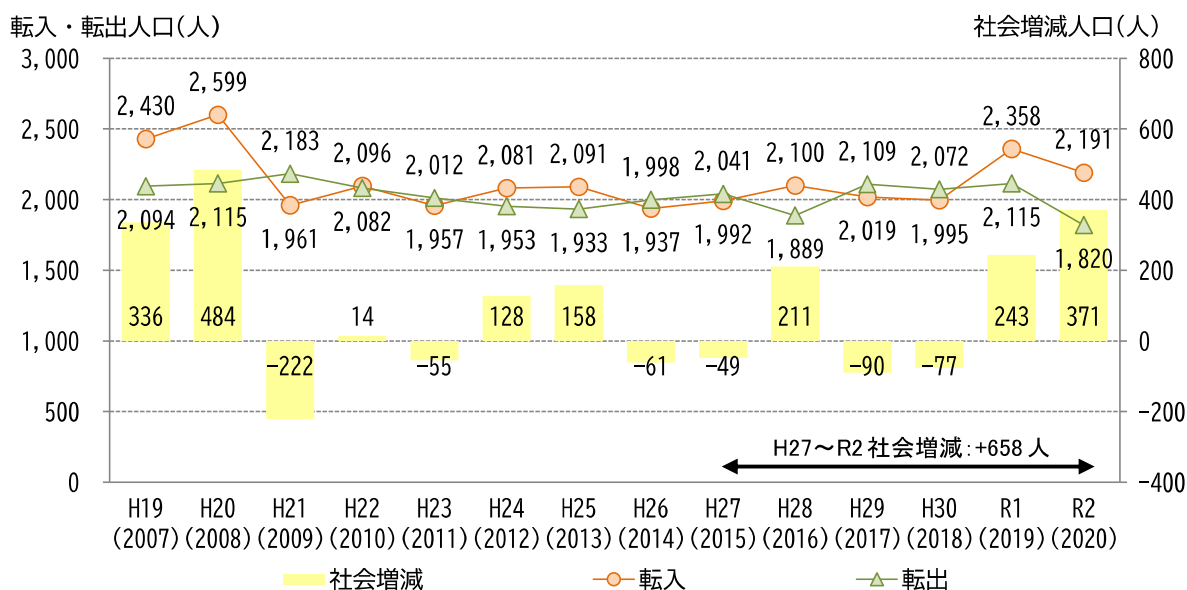
本町の人口の自然増減を平成 19（2007）年以降の出生数と死亡数の推移でみると、平成 27（2015）年までは出生数が死亡数を上回る自然増の状態が続いていましたが、平成 28（2016）年以降は死亡数が出生数を上回る自然減に転じています。

また、社会増減を平成 19（2007）年以降の転入と転出の推移でみると、転入が転出を上回る社会増の状態と転出が転入を上回る社会減の状態を繰り返しています。

■自然増減の推移



■社会増減の推移



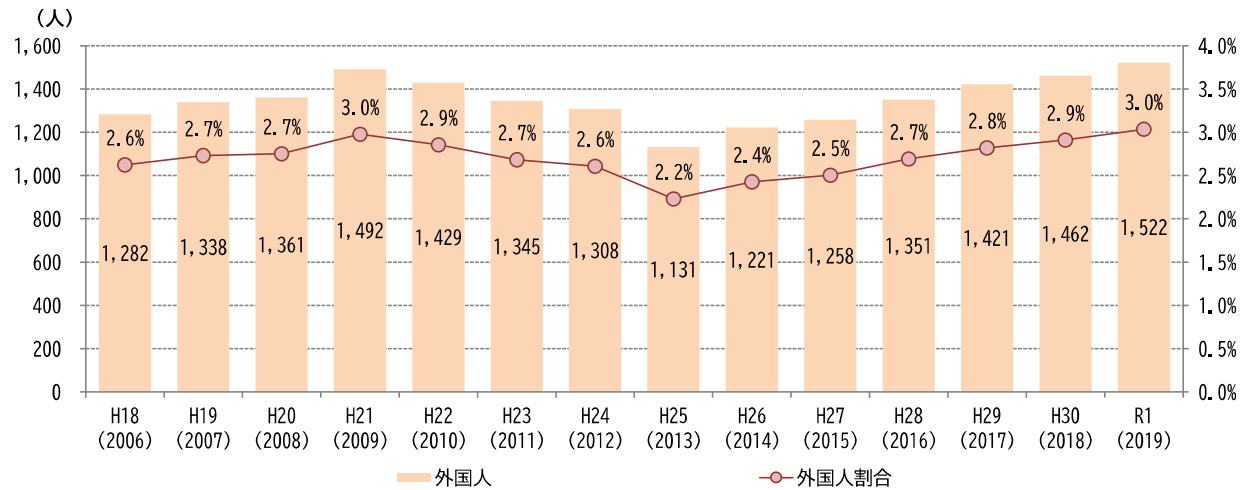
【資料:東浦町資料】

⑥ 外国人人口

・外国人人口が増加しており、全人口の約3%を占めている。

本町の外国人人口の推移をみると、平成25(2013)年までは減少傾向にありましたが、以降は増加に転じており、令和元(2019)年時点で1,522人、全人口の約3%を占めています。

■外国人人口とその割合の推移



【資料:東浦町資料】

⑦ 流入・流出人口

・流出超過となっており、近隣市町や名古屋市のベッドタウンとしての性格が強い傾向が伺える。

平成 27 (2015) 年における本町の通勤・通学による流入・流出人口をみると、流入人口が 8,942 人、流出人口が 17,740 人で 8,798 人の流出超過となっています。流入元は半田市が最も多く、次いで大府市、刈谷市、名古屋市、東海市の順になっており、近隣市町からの流入が多い状況にあります。流出先は名古屋市が最も多く、次いで大府市、刈谷市、半田市、東海市の順になっており、近隣市町や名古屋市のベッドタウンとしての性格が強い傾向が伺えます。

平成 2 (1990) 年から平成 27 (2015) 年にかけての流入人口の推移をみると、平成 17 (2005) 年に大幅に増加しましたが、平成 22 (2010) 年から平成 27 (2015) 年にかけて減少しています。

流出人口の推移をみると、名古屋市への流出が平成 7 (1995) 年以降減少が続いています。また、平成 12 (2000) 年に大府市が刈谷市を逆転しており、大府市との結びつきが強くなっています。

■流入・流出人口の推移

(単位：人)

流入元	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)
半田市	1,133	1,285	1,428	1,797	1,881	1,739
大府市	534	702	841	1,250	1,212	1,202
刈谷市	369	459	464	737	949	860
名古屋市	365	388	436	679	861	846
東海市	353	457	499	743	795	776
その他の市町村	1,537	1,673	1,947	3,023	3,524	3,415
県内計	4,291	4,964	5,615	8,229	9,222	8,838
岐阜県	9	10	25	25	30	43
その他の都道府県	12	20	18	43	50	61
他県計	21	30	43	68	80	104
合計	4,312	4,994	5,658	8,297	9,302	8,942

流出先	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)
名古屋市	4,109	4,660	4,459	4,020	3,676	3,675
大府市	2,135	2,455	2,713	2,791	2,914	2,926
刈谷市	2,503	2,463	2,605	2,694	2,685	2,913
半田市	1,360	1,657	1,747	1,897	1,987	2,067
東海市	1,072	1,176	1,305	1,329	1,254	1,177
その他の市町村	3,235	3,712	4,304	4,665	4,519	4,726
県内計	14,414	16,123	17,133	17,396	17,035	17,484
岐阜県	56	77	68	62	60	66
三重県	28	40	46	44	57	62
静岡県	19	15	20	12	16	21
その他の都道府県	23	54	60	9	48	107
他県計	126	186	194	127	181	256
合計	16,309	16,309	17,327	17,523	17,216	17,740

【資料：国勢調査】

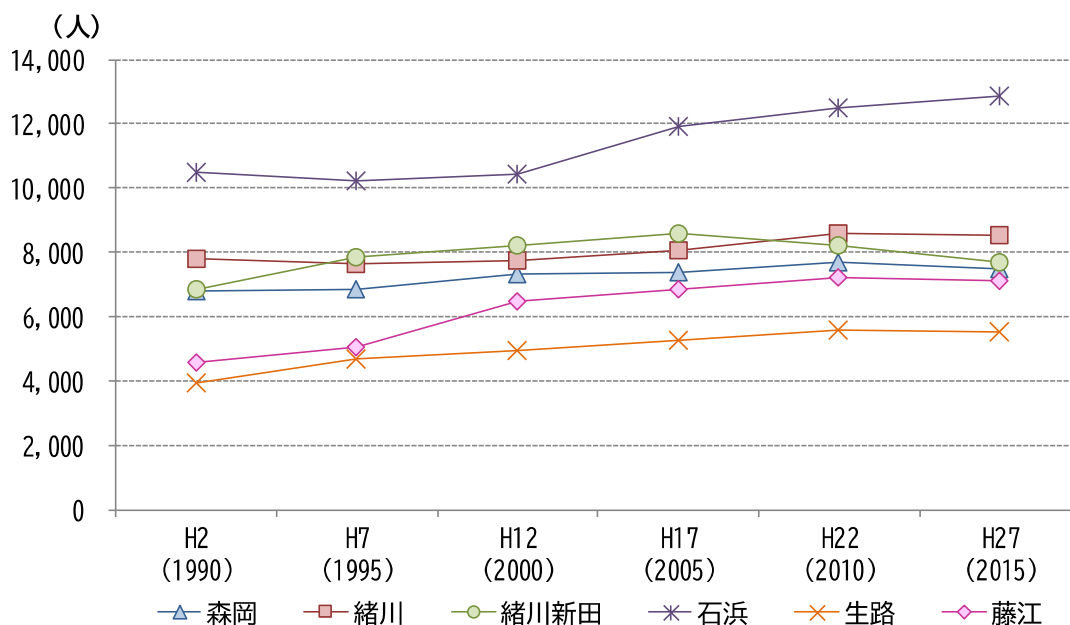
⑧ 地域別人口

・ 中心市街地を含む石浜地域以外では、人口が減少している。

本町の地域別人口をみると、都市拠点に位置付けられる緒川駅周辺を含む石浜地域が最も多く、平成 27（2015）年においては町全体の約 26％を占めています。

地域別人口の推移をみると、平成 17（2005）年まではどの地域も概ね増加傾向にありましたが、平成 27（2015）年には石浜地域を除き減少に転じています。特に、緒川新田地域においては、平成 17（2005）年から平成 27（2015）年にかけて約 10％減少するなど、人口の減少傾向が顕著です。

■地域別人口の推移

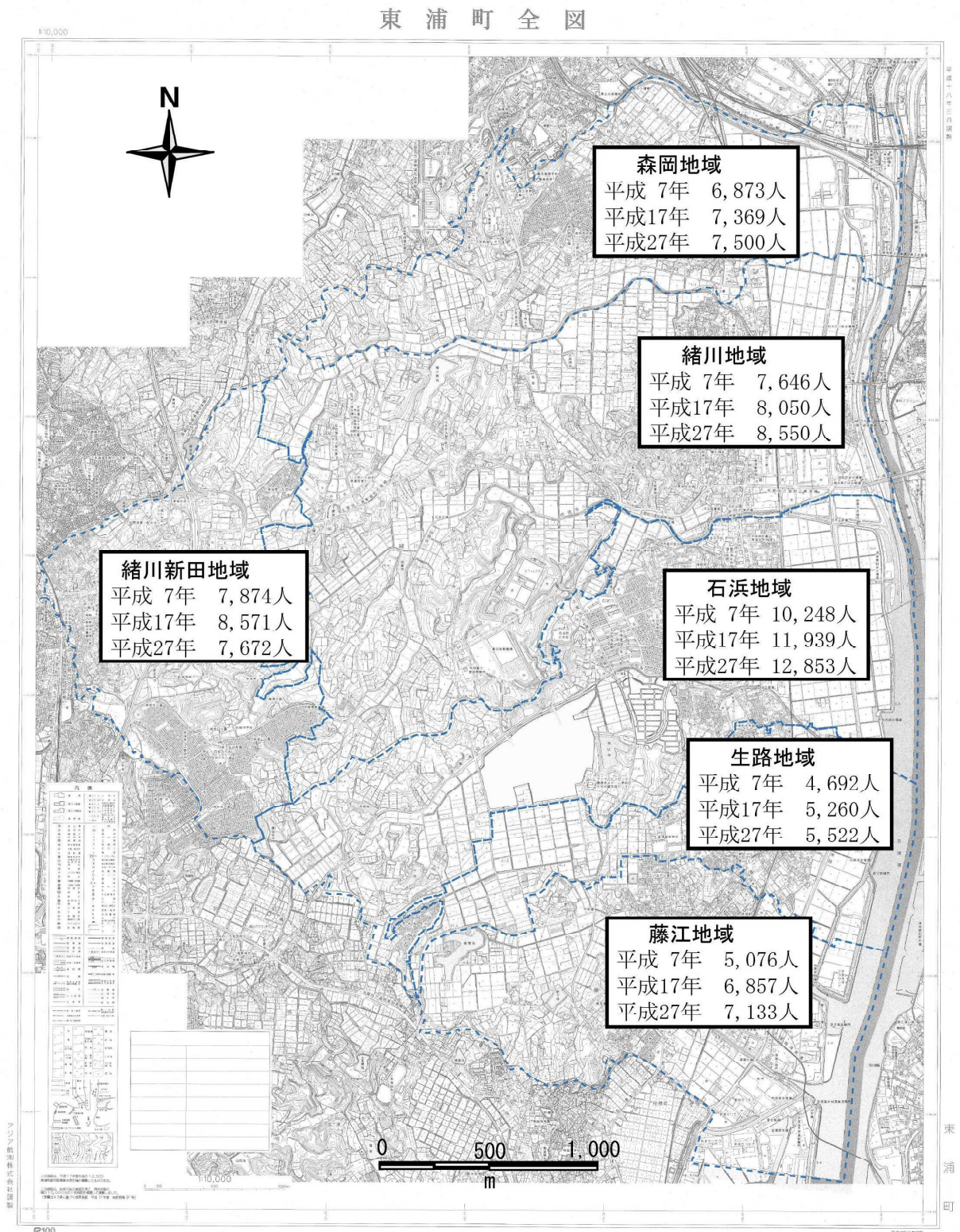


(単位：人)

地域名	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	割合(%)
森岡	6,820	6,873	7,313	7,369	7,680	7,500	15.2
緒川	7,796	7,646	7,746	8,050	8,573	8,550	17.4
緒川新田	6,825	7,874	8,219	8,571	8,203	7,672	15.6
石浜	10,484	10,248	10,422	11,939	12,510	12,853	26.1
生路	3,950	4,692	4,944	5,260	5,596	5,522	11.2
藤江	4,556	5,076	6,504	6,857	7,238	7,133	14.5
合計	40,430	42,409	45,168	48,046	49,800	49,230	100.0

【資料：国勢調査】

■地域別人口



【資料：国勢調査】

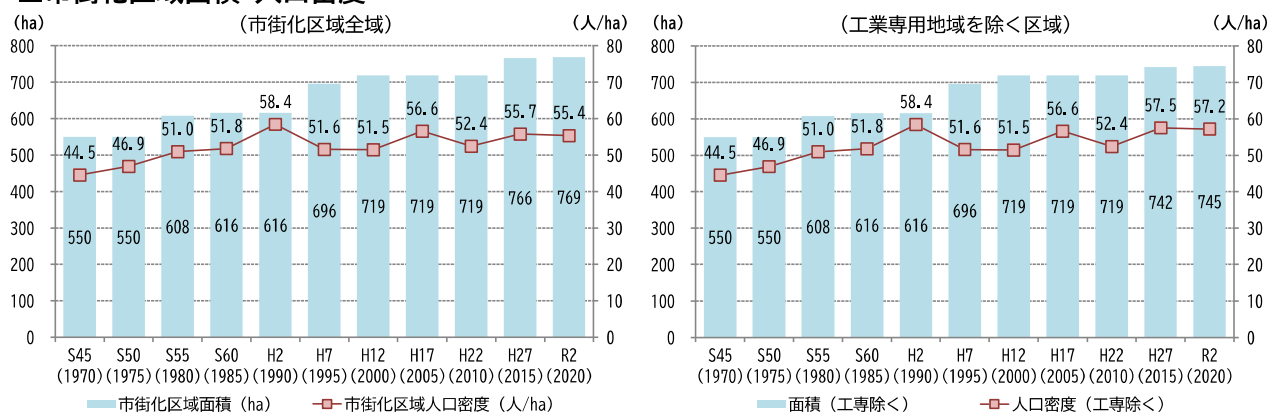
⑨ 市街化区域人口

- ・市街化区域において人口集積が進行している。

本町の市街化区域は、令和2（2020）年時点で769ha（町全体の約25%）となっており、昭和45（1970）年の当初線引き時点の550haから219ha拡大しています。

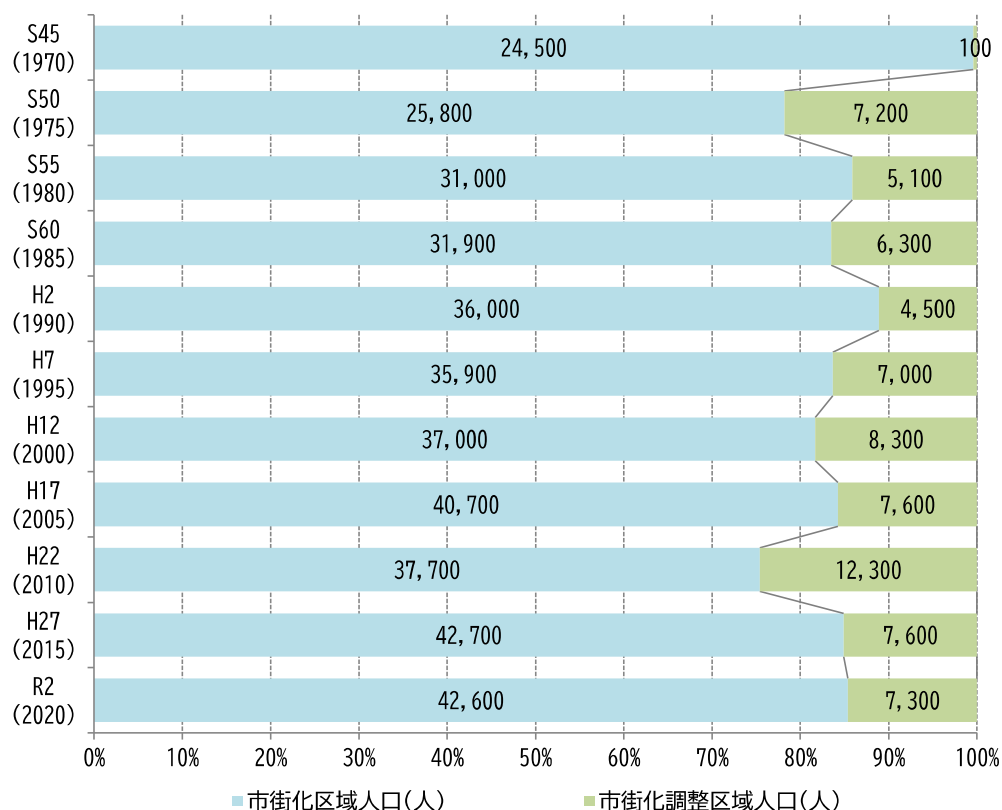
総人口に占める市街化区域内人口の割合は、令和2（2020）年には約85%と上昇傾向にあります。また、市街化区域のうち工業専用地域を除く区域の人口密度についても、当初線引き時点の44.5人/haから、令和2（2020）年には57.2人/haに増加するなど市街化区域において人口集積が進行しています。

■市街化区域面積・人口密度



【資料：都市計画年報】

■市街化区域と市街化調整区域の人口



【資料：都市計画年報】

⑩ DID（人口集中地区）人口

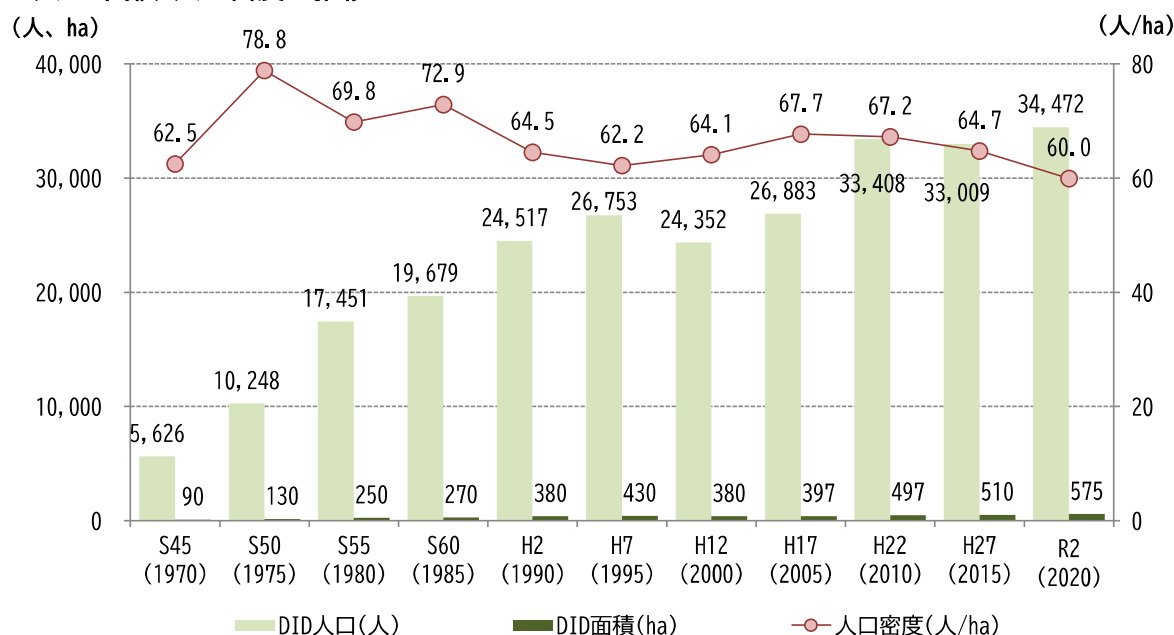
- ・ JR 武豊線沿線が DID となっており、人口が集積している。
- ・ DID 人口密度は減少傾向にあり、都市の低密度化が進行しつつある。

本町における市街地形成の過程を、DID の人口、面積、人口密度の推移からみると、昭和 45（1970）年時点の人口は 5,626 人、面積は 90ha でしたが、令和 2（2020）年時点では人口が 34,472 人、面積が 575ha にまで拡大しています。

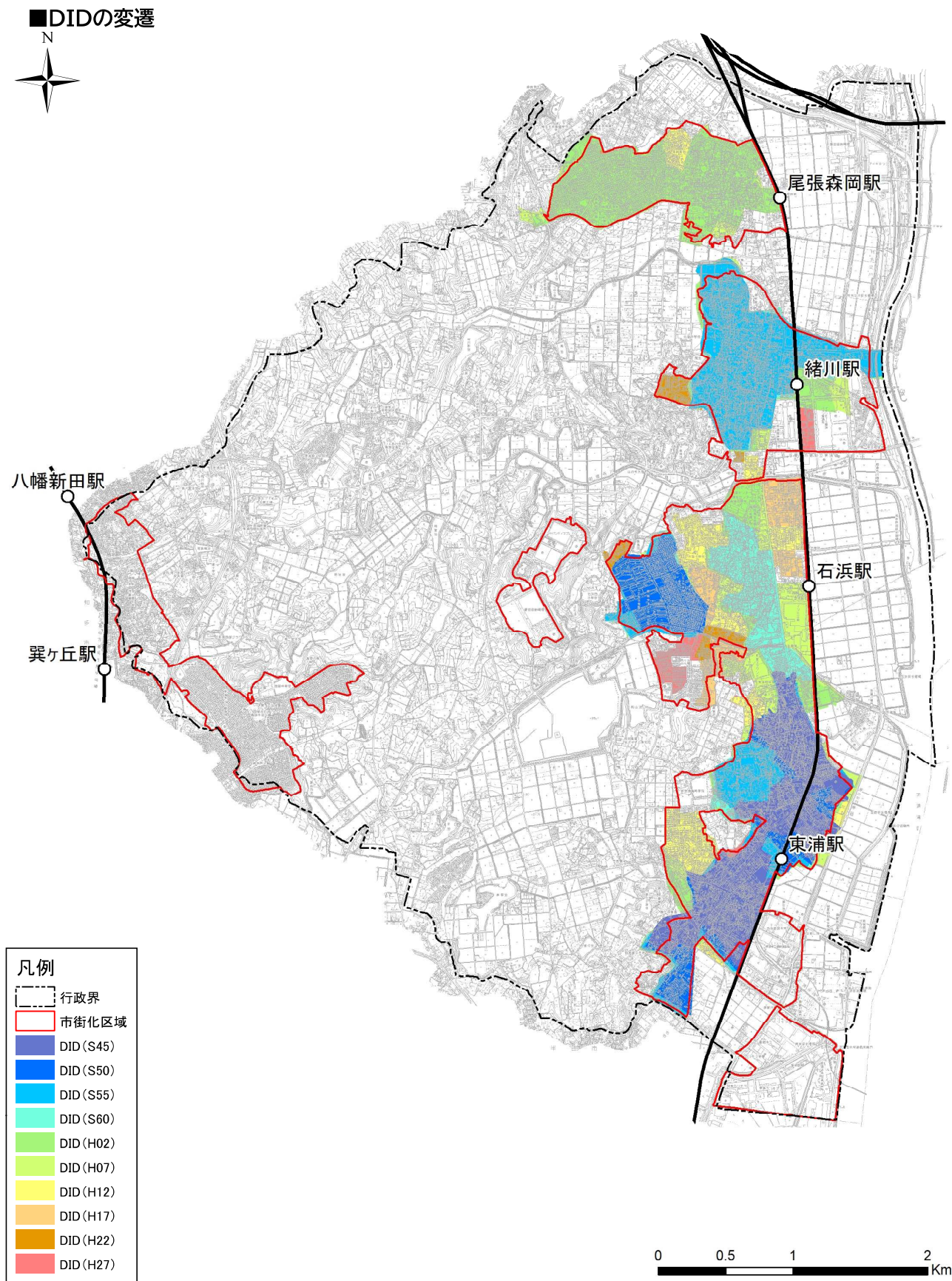
DID の人口密度の変化をみると、昭和 50（1975）年の 78.8 人/ha をピークに減少傾向にあり、令和 2（2020）年時点で 60 人/ha となっています。DID の目安である 40 人/ha は上回っているものの、都市の低密度化が進行しつつあります。

DID の変遷をみると、昭和 45（1970）年時点では東浦駅周辺の地区のみでしたが、昭和 55（1980）年には緒川駅周辺も DID となり、昭和 60（1985）年から平成 7（1995）年にかけて、尾張森岡駅や石浜駅の周辺も DID となりました。以降は外側に向かって拡大が続き、平成 27（2015）年時点では、本町東部の市街化区域の大部分が DID となっています。

■DID人口・面積・人口密度の推移



【資料：国勢調査】



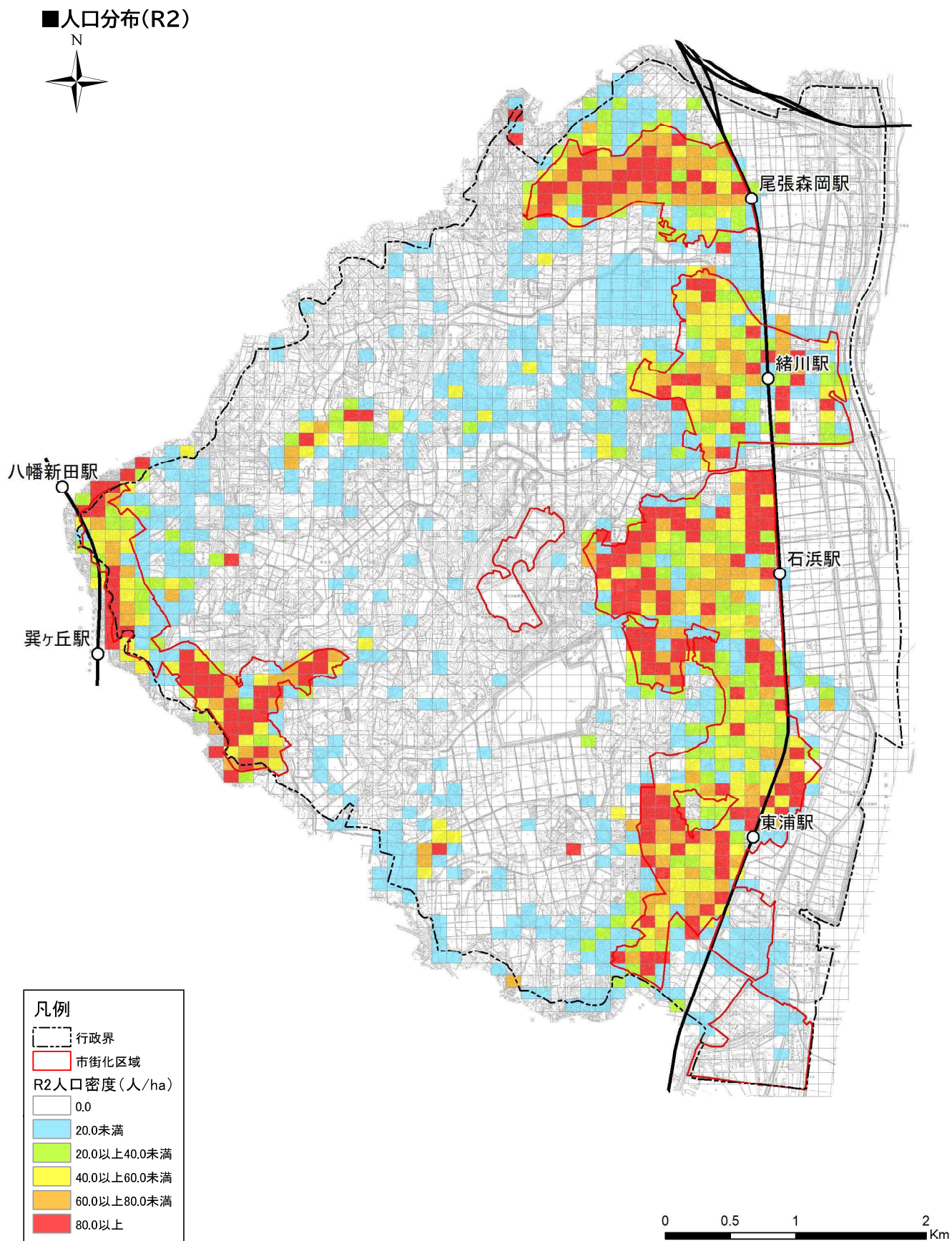
【資料:国土数値情報】

⑪ 人口分布

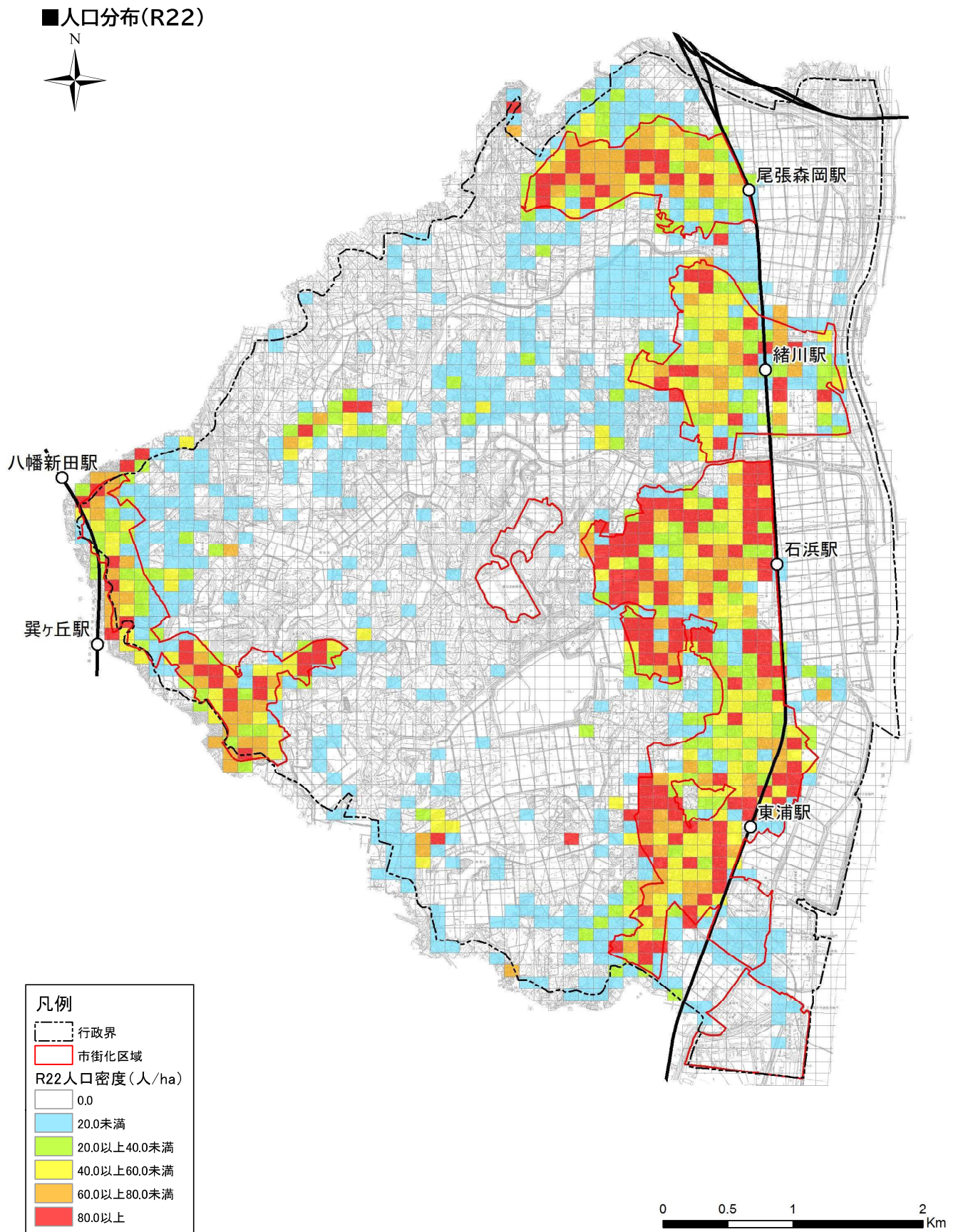
- ・ 鉄道駅周辺の市街化区域に人口が集積している。
- ・ 市街化区域は人口密度が 40 人/ha を上回る地区が多いものの、40 人/ha 未満の地区も存在している。

令和 2（2020）年における本町の人口密度の分布をみると、各鉄道駅の周辺の市街化区域に人口が集積しています。市街化区域では DID の基準密度（40 人/ha）を上回る地区が多く、尾張森岡駅西側の森岡台団地や石浜駅西側の県営東浦団地及び南ヶ丘、巽ヶ丘駅東側の東ヶ丘団地などでは人口密度が 80 人/ha 以上となっています。一方、市街化区域内であっても、緒川駅の西側や石浜駅と東浦駅の間など 40 人/ha 未満の地区もみられます。市街化調整区域は一部の地区を除き人口密度が低く、20 人/ha 未満の地区が多くなっています。

また、令和 22（2040）年の人口密度の分布と比較すると、一部の地区で人口の減少がみられるものの、人口の分布に大きな変化はないと予想されています。



【資料：人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)】



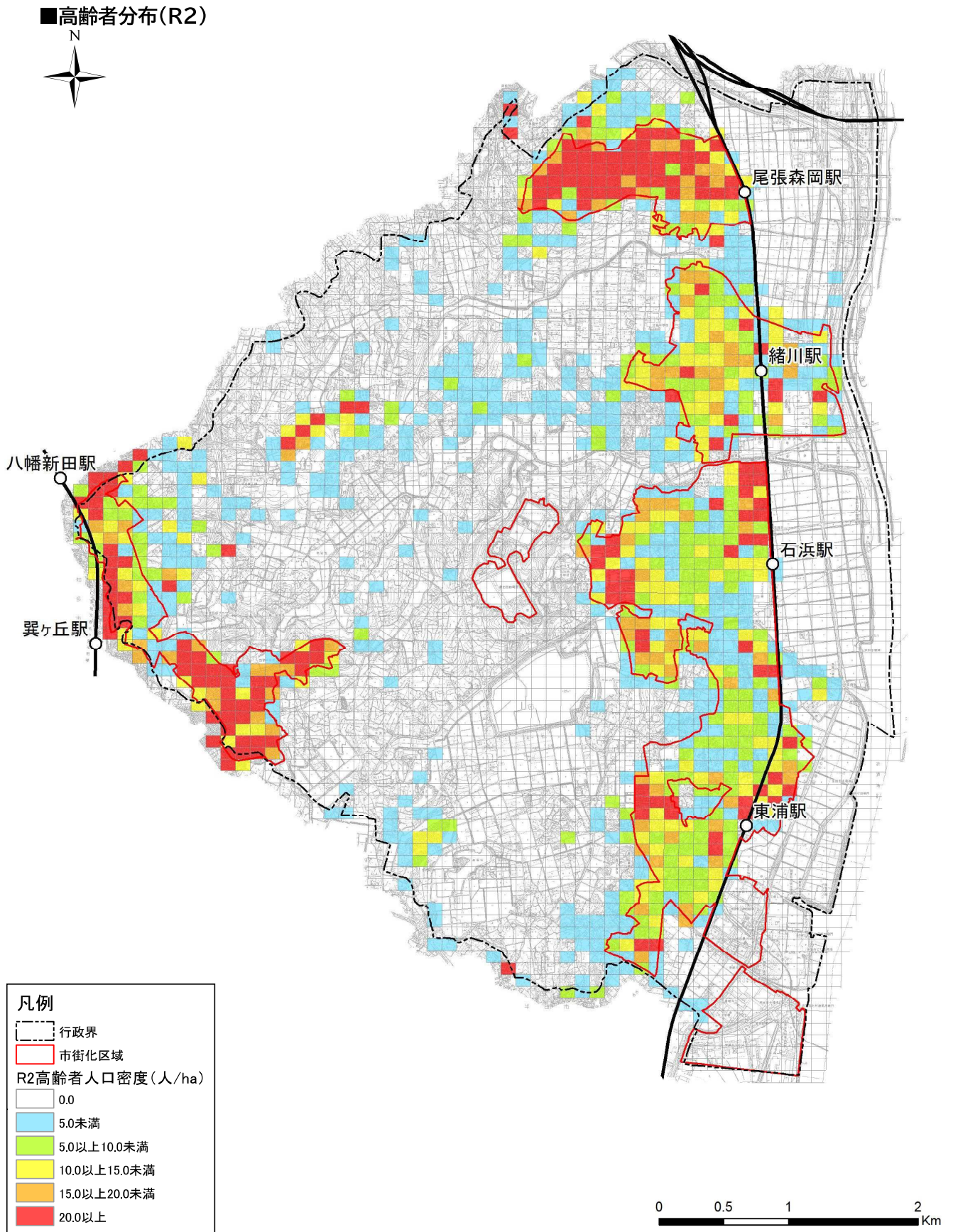
【資料:「人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)」に基づき独自推計】

⑫ 高齢者分布

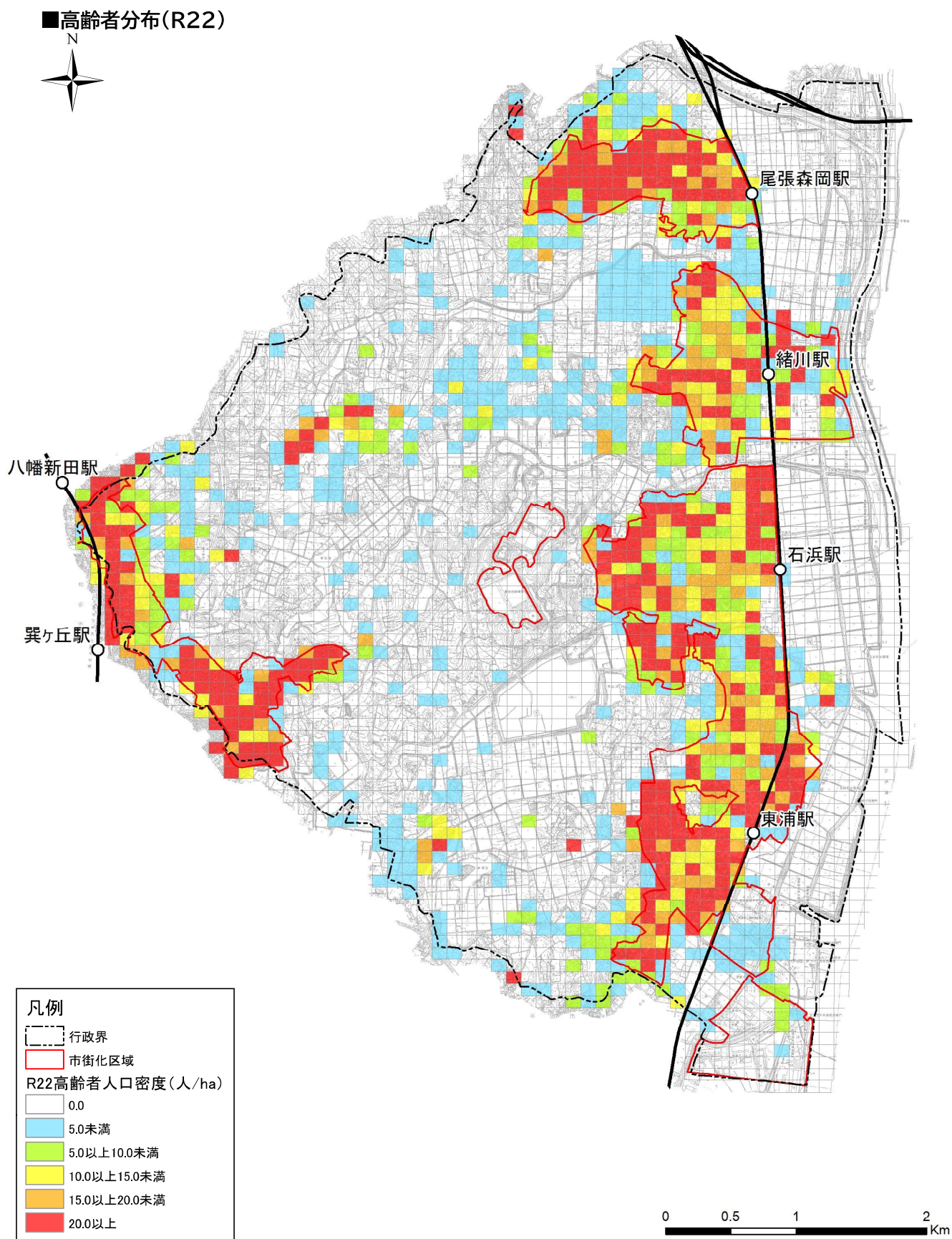
- ・森岡台や東ヶ丘団地などで高齢化が進んでいる。
- ・将来は町全域で高齢化が進むと予想されている。

令和2（2020）年における本町の高齢者人口密度及び高齢化率の分布をみると、尾張森岡駅西側の森岡台団地や巽ヶ丘駅東側の東ヶ丘団地のほか、石浜駅の北側や東浦駅の周辺などに20人/ha以上の地区がみられ、森岡台団地や東ヶ丘団地の周辺では高齢化率も30%以上と高い状況にあります。

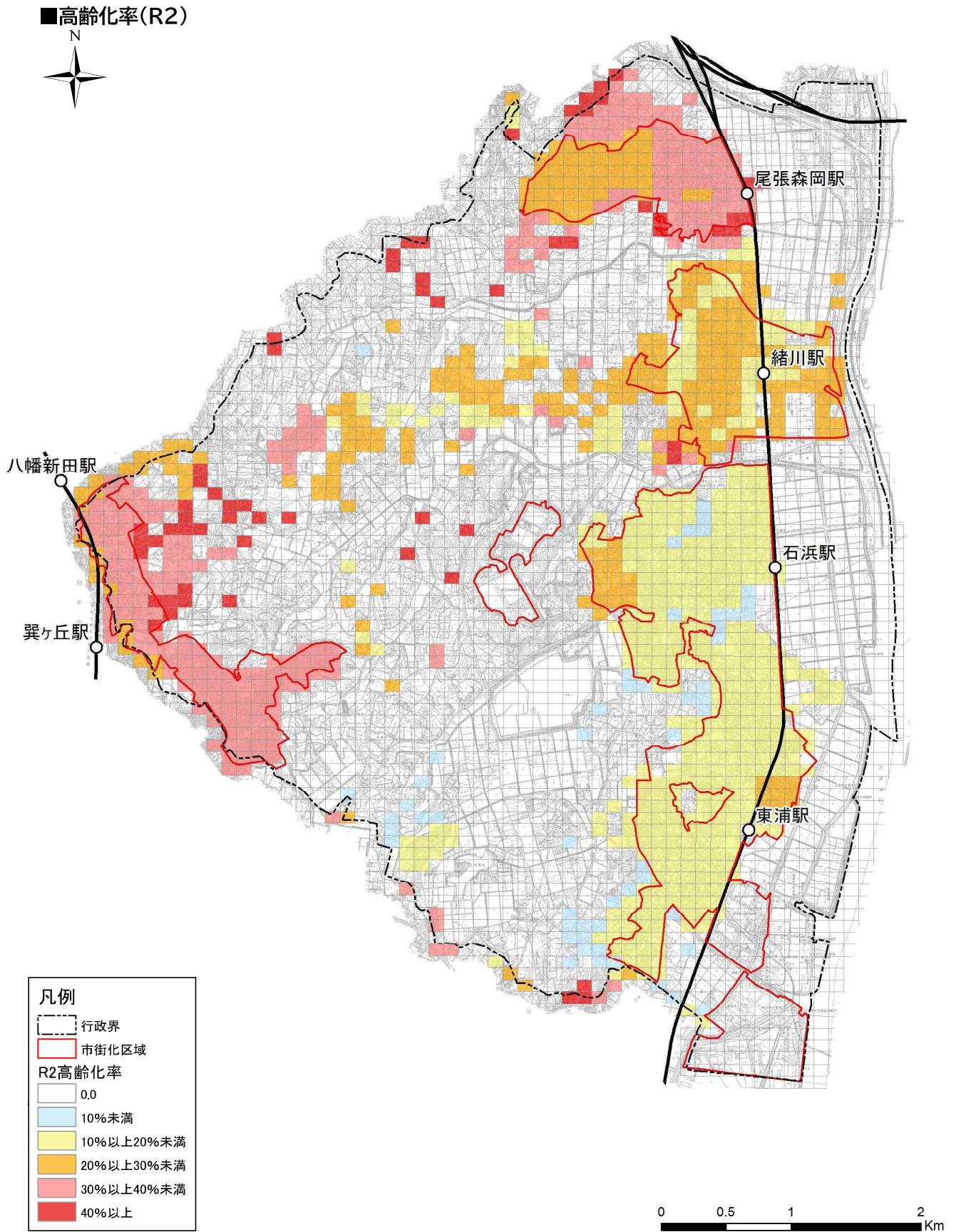
また、令和22（2040）年の高齢者人口密度及び高齢化率の分布と比較すると、20人/ha以上の地区が増え、ほとんどの地区で高齢化率が20%以上となるなど、町全域で高齢化が進むと予想されています。特に、尾張森岡駅や八幡新田駅の周辺、東ヶ丘団地、市街化調整区域の多くの地区で高齢化率が40%以上になると予想されています。



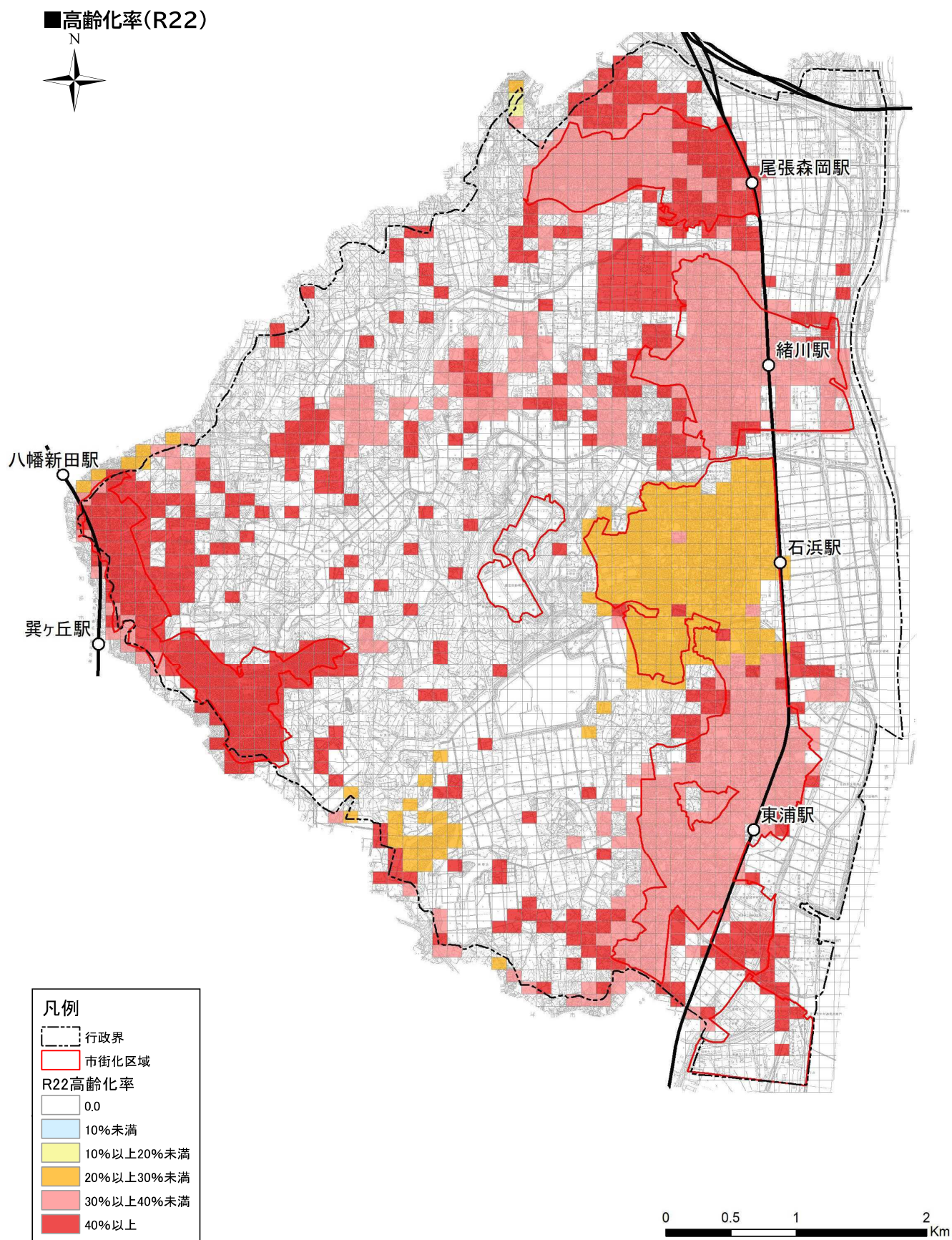
【資料：人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)】



【資料:「人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)」に基づき独自推計】



【資料：人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)】



【資料:「人口統計メッシュデータ(令和元(2019)年度版)」に基づき独自推計】

(2) 土地利用・都市基盤

① 土地利用現況

- ・市街地は東西２つに分かれている。
- ・駅周辺に住宅用地や商業用地が集積し、丘陵地には住宅団地が形成されている。
- ・大規模な工業地が本町の北部や南部、中部に形成されている。

本町の土地利用は、市街地が東西２つに分かれて形成されています。

東部の市街化区域には、駅周辺に住宅用地が分布し、丘陵地には住宅団地が形成されています。商業用地は緒川駅の東側に大規模な集積があるほか、尾張森岡駅や東浦駅周辺にも分布しています。工業用地は尾張森岡駅の東側や本町の中中部や南部に大規模な集積があるほか、緒川駅・石浜駅・東浦駅の周辺にも分布しています。西部では名鉄河和線沿いに住宅地が形成され、その南側に大規模な住宅団地がみられます。